新潟水俣病の被害は なぜ くり返されたのですか？



Q9 熊本で水俣病が発見されてから、どうして９年もたった1965（昭和40）年に新潟水俣病が発生することになったのですか？



A9 経済成長を優先し、人の命や健康、環境を守ることが後まわしにされたことで発生したといえます。

熊本大学の研究班は1959（昭和34）年に、有機水銀が水俣病の原因と公表しましたが、原因の特定は1968（昭和43）年の政府統一見解を待たなければなりませんでした。

また、通商産業省[※3]は、1959（昭和34）年にチッソ水俣工場と同じようにアセトアルデヒドや塩化ビニルを生産している全国の工場を調査しましたが、結果は公表されず、水俣病の発生を防ぐ措置はとられず、昭和電工鹿瀬工場やチッソ水俣工場では増産が行われました。

当時の日本は戦後の復興が終わり、国をあげて技術革新による新たな経済発展を目指していました。そのため、人の命や健康、環境を守ることよりも、国の経済成長や会社の利益を優先したことで水俣病は発生したといえます。



Q10 どうして差別や偏見が起きたのですか？ どんな差別や偏見があるのですか？



A10 最初は、原因がわからなかったことがありました。その後は、裁判を起こしたり救済を受けたりしたことで「金目当て」、「ニセ患者」などと差別や偏見を持たれました。

最初に水俣病が発見された水俣市では、原因がわからないため、患者の家を消毒したり、伝染病棟に入院させたりしました。その後、原因が伝染病ではないことがわかってからも、行政や報道機関がはっきり取り消さなかったため、周りの人たちに伝染病、こわい病気という誤解や偏見が残ることになりました。

このため、患者の中には会社を辞めさせられたり、結婚を反対されたりする人が出てしまいました。

新潟でも、最初は「タタリ」、「ナゾの病気」などと言われました。また、多くの患者は外見から健康な人と見分けがつきにくく、水俣病の認定申請をしても、認められないと「金ほしさに申請した」、「ニセ患者」などと言われ、裁判を起こすと「そこまでして金がほしいか」などと中傷されました。他にも嫌がらせの電話やはがきが届いたり、家を建てると「水俣御殿を建てた」などとねたまれたりすることもありました。